

オオモノサシトンボ

昆虫類・トンボ目
モノサシトンボ科

Copera tokyoensis

生息環境

平地帯 湖沼 池

評価理由

館林市、板倉町、邑楽町の16カ所で記録されている。現在の確実な生息地は3カ所で、生息地や個体数が著しく減少している。

主な危険要因

開発行為 農薬等汚染 雑排水等汚濁 捕食圧

改修工事による抽水植物の消失、農薬や生活雑排水の流入、ブルーギルなどの外来魚による捕食圧により、幼虫の生息地や個体数が減少するおそれがある。

生態の特性

利根川水系や信濃川下流域に分布している。生息地の多くはオオセスジイトトンボの生息地と重なっている。幼虫はヨシやマコモ、ガマなどが繁茂する泥深い富栄養型の河跡池沼に生息し、泥にまみれた抽水植物の根ぎわにつかまっている。

特記事項

今回評価

絶滅危惧
I類

群馬県
(2002)

絶滅危惧II類

環境省
(2012)

絶滅危惧
I B類

環境省
(2007)

絶滅危惧I類

適用基準

定性①、②

県内分布状況



ゲンゴロウ

Cybister japonicus

昆虫類・コウチュウ目
ゲンゴロウ科

生息環境

亜山地帯 山地帯 湖沼 池

評価理由

中部と利根地域の各1カ所で生息が確認されているが、開発行為により生息可能な湖沼や水田が激減している。

主な危険要因

開発行為 捕獲 その他（朽木や落葉の回収）

開発や整備により生息環境が失われたり、収集や販売目的の捕獲で、個体数の減少や個体群が消失するおそれがある。

生態の特性

山間部の池沼に生息し、小動物を捕食する。

特記事項

今回評価

絶滅危惧
I類

群馬県
(2002)

絶滅危惧 I類

環境省
(2012)

絶滅危惧 II類

環境省
(2007)

準絶滅危惧

適用基準

定性②

県内分布状況



オオタニシ

マキガイ類・ニナ目
タニシ科

Cipangopaludina japonica

生息環境 平地帯 亜山地帯 山地帯 湖沼

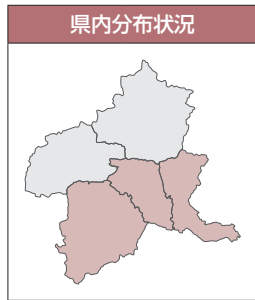
評価理由 過去には榛名湖、赤城大沼、多々良沼で確認されていた。現在はこの3カ所では確認できなくなった。

主な危険要因 開発行為 農薬等汚染 雑排水等汚濁 環境急変
生息地の3つの湖沼は、雑排水の流入や護岸工事などにより生息環境が悪化している。

生態の特性 流れが緩やかな河川、湖沼などの水質や水量の安定した場所に生息する。

特記事項 胎児はひし形。最近の小規模の湖沼、ため池の記録はマルタニシの誤認。

今回評価	絶滅危惧Ⅰ類
群馬県(2002)	絶滅危惧Ⅱ類
環境省(2012)	準絶滅危惧
環境省(2007)	準絶滅危惧
適用基準	定性①



タチスミレ

被子植物・双子葉類
スミレ科

Viola raddeana Regel

評価理由

3 地点中 2 地点で確認されたが、いずれも残存株数はわずかである。かつての生育地の大規模な破壊に加え、過去 10 年間で工事により主要な生育地が消滅した。

主な危険要因

河川開発、湿地開発、その他（公園整備）
河川敷の大規模な開発によって激減したのに加え、わずかに残った生育地でも公園整備により壊滅的な影響を受けた。

特記事項

今回評価	絶滅危惧 IA 類	
群馬県 (2001)	絶滅危惧 I 類	
環境省 (2007)	絶滅危惧 II 類	
環境庁 (2000)	絶滅危惧 IB 類	
適用基準	定量 C	
産地数	現存	2
	不明	0
	絶滅	1

県内分布状況



アイズヒメアザミ

被子植物・双子葉類
キク科

Cirsium aidzuense Nakai ex Kitam.

評価理由

3地点で生育が確認されているが、うち1地点ではシカの食害により1株まで減少している。残り1地点も周辺までシカが侵入している。

主な危険要因

動物食害、自然遷移

シカによる被害が著しい地域に分布が偏っている。やや攪乱依存的な性質があり、遷移進行によっても衰退する。

特記事項

シカの嗜好性が高い種である。2009年時点ではシカの食害が認められなかった地域も、現在は周辺までシカの生息域が広がってきている。また、分布域ではイノシシの侵入も始まった。

今回評価	絶滅危惧 IA 類
群馬県 (2001)	希少
環境省 (2007)	絶滅危惧 IA 類
環境庁 (2000)	絶滅危惧 IB 類

適用基準	定量 ACD	
産地数 3	現存	3
	不明	0
	絶滅	0

県内分布状況



ナツエビネ

被子植物・単子葉類
ラン科

Calanthe reflexa Maxim.


評価理由

4 地点中 1 地点で生育が確認されたが、株数はわずかである。残り 3 地点のうち 2 地点では園芸採取により絶滅した。

主な危険要因

園芸採取
個体数が少ないため、園芸採取によるリスクが高い。

特記事項

今回評価		絶滅危惧 IA 類
群馬県 (2001)		絶滅
環境省 (2007)		絶滅危惧 II 類
環境庁 (2000)		絶滅危惧 II 類
適用基準		定量 ACD
産地数	現存	1
4	不明	1
	絶滅	2
県内分布状況		
		

ムカデラン

被子植物・単子葉類
ラン科

Cleisostoma scolopendrifolium (Makino) Garay


評価理由

4 地点中 1 地点で生育が確認されたが、株数はわずかである。園芸目的のためわずかに残った株まで採取されている。

主な危険要因

園芸採取、その他（擁壁工事）、分布限界
ダム工事や擁壁工事により減少したが、近年は園芸採取による減少が顕著である。

特記事項

今回評価	絶滅危惧 IA 類	
群馬県 (2001)	絶滅危惧 I 類	
環境省 (2007)	絶滅危惧 II 類	
環境庁 (2000)	絶滅危惧 II 類	
適用基準	定量 A	
産地数	現存	1
4	不明	0
	絶滅	3
県内分布状況		
		

ムカゴソウ

被子植物・単子葉類
ラン科

Herminium lanceum (Thunb. ex Sw.) J. Vuijk

評価理由

5地点中1地点のみで少数の生育が確認された。現存産地以外の記録はいずれも30年以上前のもので、絶滅リスクは極めて高いと考えられる。

主な危険要因

園芸採取、自然遷移、土地造成

生育地の管理放棄にともなう大形植物の侵入に加えて園芸や標本目的の採取が主な危険要因である。

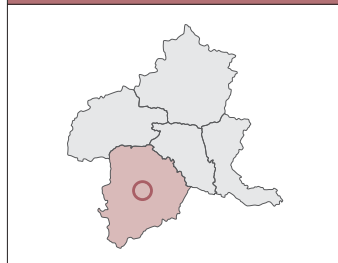
特記事項

今回評価	絶滅危惧 IA 類
群馬県 (2001)	指定なし
環境省 (2007)	準絶滅危惧
環境庁 (2000)	指定なし

適用基準	定性
------	----

産地数	現存	1
	不明	3
	絶滅	1
5		

県内分布状況



ノヤマトンボ

被子植物・単子葉類
ラン科

Platanthera minor (Miq.) Rchb.f.

評価理由

3地域で記録があるが、現存する確実な生育地は1地点のみとなっている。

主な危険要因

森林伐採、園芸採取、自然遷移

生育地の大半は宅地・道路造成や公園整備などによる森林伐採で失われている。草丈が高く花期には人目につくので園芸採取される可能性が高い。

特記事項

県植物誌改訂版（1987）には3地域の分布が示されているが、今も現存しているのは1地域のみとなっている。

今回評価

絶滅危惧 IA 類

群馬県（2001）

指定なし

環境省（2007）

指定なし

環境庁（2000）

指定なし

適用基準

定量 ACD

産地数

現存

1

3

不明

0

絶滅

2

県内分布状況



ニョホウチドリ

被子植物・単子葉類
ラン科

Ponerorchis joo-iokiana (Makino) Nakai

評価理由

2 地点中 1 地点で生育が確認された。極めて局所的に分布することに加え、園芸採取による減少が確認された。

主な危険要因

園芸採取

大がかりな園芸採取による被害が確認されている。

特記事項

今回評価

絶滅危惧 IB 類

群馬県 (2001)

絶滅危惧 I 類

環境省 (2007)

準絶滅危惧

環境庁 (2000)

絶滅危惧 IB 類

適用基準

定量 ACD

産地数

現存

1

2

不明

1

絶滅

0

県内分布状況



コウシンソウ

被子植物・双子葉類
タヌキモ科

Pinguicula ramosa Miyoshi

評価理由

1 地点のみで生育が確認されている。過去 10 年間の間に園芸採取によって株数が半分以下に減少した。

主な危険要因

園芸採取、特殊分布、分布限界

生育地は人が容易に立ち入りできる場所ではないにもかかわらず、採取された形跡がある。

特記事項

タイプ産地の栃木県庚申山の生育地は国指定特別天然記念物である。分布域は極めて狭く、本県は分布域の南限にあたる。

今回評価

絶滅危惧 IB 類

群馬県 (2001)

希少

環境省 (2007)

絶滅危惧 II 類

環境庁 (2000)

絶滅危惧 II 類

適用基準

定量 ACD

産地数

現存

1

1

不明

0

絶滅

0

県内分布状況

